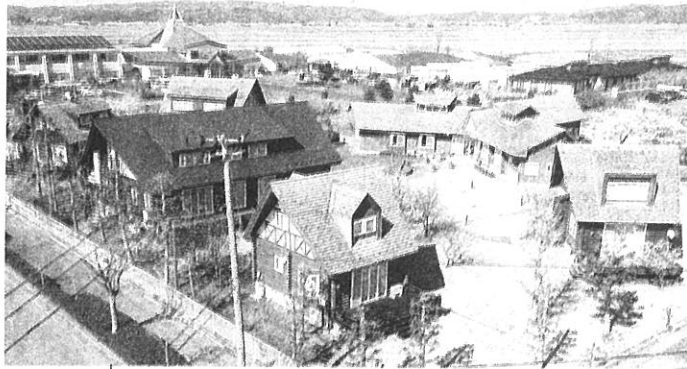


美里町

土田畑村リニューアル

中庭整備しメニューも一新



「でんえん土田畑村(だてはたむら)」の愛称で知られる美里町木間塚の宿泊施設「交流の森・交流館」がリニューアルした。21日に記念セレモニーが開かれ、関係者が開設25年にして迎えた再スタートを祝った。

開設25年迎え再出発

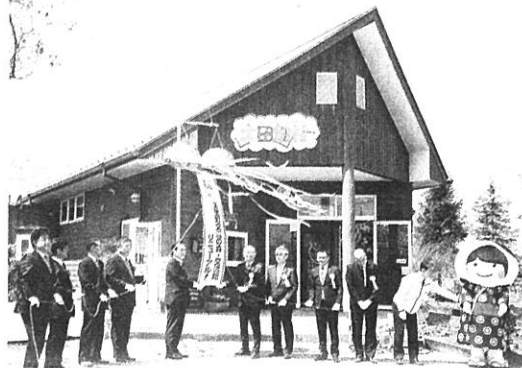


へ興復 張ろう! みやぎ みやぎ

異国情緒漂うログハウズが並ぶでんえん土田畑村

土田畑村は、プールや野球場が集約する町内の体育施設の利用率向上などを視野に旧南郷町が1994年に開設した。スギ丸太を組み込んだログハウス6棟が並び、自炊設備も備わる。特徴的な愛称は公募で選ばれた。管理運営は、住民でつくる南郷ふれあい公社が長年担ったが、同団体が近日中の解散を

決めたことから町は後継団体を公募。昨年10月、公共施設などの計画や設計、管理運営を手掛ける「オリエンタルコンサルタンツ(東京都渋谷区)の美里事務所(美里町素山町)と基本協定を結んだ。指定管理期間は1日から5年間。南郷ふれあい公社の元社員7人がスタッフを務める。協定締結後、同社は、



関係者がくす玉を割ってリニューアルを祝った

町が連携協力関係を結んでいる宮城大の学生や住民の意見、南郷高の生徒の協力で管理棟内装と入り口周辺、中庭を整備。メニューも地場産品をふんだんに活用したものへの一新を図った。老朽化が進む建物と庭は数カ月後をめどに改修を施すほか、農業体験や音楽フェス、地元高校との商品開発などを通じ施設の利用率向上を目指すという。セレモニーには、町と同社の関係者を中心約60人が出席した。野崎秀則社長が「地域と連携し、訪れる人たちに喜んでもらえる施設を目指して運営し、町の魅力と合わせて発信していきたい」とあいさつした。

館長を務める山本和幸さんが運営方針として▽利用者ニーズを捉えたサービス提供▽町民と連携した地域振興策の実施▽インターネットを活用した広報活動の三つを説明した。

最後に相澤清一町長や野崎社長がテープカットに続いてくす玉を割り、町有数の宿泊施設の再出発を祝った。相澤町長は「町内の資源を使って町の魅力を伝え、多くの人に楽しんでもらえる施設にしたい」と期待を込めていた。